

第70回 中小企業景況調査

(令和3年7月～令和3年9月)

《 調査結果の要約 》

全業種業況D Iは▲16.0%（前期比22.8ポイント減）と大幅な減少傾向が見られる。種別では、建設業、小売業（最寄品）で増加傾向を示しているものの、製造業、小売業（買回品）、飲食業、サービス業では低下傾向となっている。

業種別にみると、下記の通りである。

3ヵ月前と比べて好転 ↑ : 建設業、小売業（最寄品）

3ヶ月前と比べて低下 ↓ : 製造業、小売業（買回品）、飲食業、サービス業

1. 全業種業況判断D Iは、▲16.0%（前期比22.8ポイント減）と大幅な減少傾向が見られるが、3ヵ月先は、+14.0%と再び増加の見通しである。
2. 設備投資件数は20件（3ヵ月前と比べて+3件）となっており、その内訳はOA機器5件、機械設備5件、車両運搬具2件、建物等8件、その他0件となっている。
3. 経営上の問題点（延べ問題点件数に対する比率）は、①需要の停滞29%（53社）が最も多く、②利用者ニーズの変化13%（24社）、③単価の低下・上昇難12%（22社）、④人件費以外の経費の増加11%（21社）、⑤人件の増加10%（19社）が続いている。

<国内および神奈川県の中企業の景況トピックス>

・中企業の業況判断D Iは、3期ぶりに低下した。

1、2021年7～9月期の全産業の業況判断D Iは、▲28.4（前期差2.6ポイント減）となり、2期ぶりに低下した。

2、製造業の業況判断D Iは、▲17.5（前期差0.3ポイント減）となり、5期ぶりに低下した。

業種別に見ると化学、繊維工業、輸送用機械器具、機械器具など8業種で上昇し、食料品、鉄鋼・非鉄金属、家具・装備品、金属製品など6業種で低下した。

3、非製造業の業況判断D Iは、▲32.1（前期差3.3ポイント減）となり、2期ぶりに低下した。

産業別に見ると、小売業、卸売業、建設業、サービス業の全ての産業で低下した。

・神奈川県中企業の総合業況D Iは、前期比1.1ポイント低下の▲45.6となった。経営状況では、売上D Iは前期比1.1ポイント低下の▲34.4、また、採算D Iは同0.3ポイント低下の▲36.4となった。今後の業況D Iを見ると、3ヵ月後は現在比0.8ポイント低下の▲46.4、半年後は同2.9ポイント上昇の▲42.7を見込んでいる。

※ 国内は独立行政法人中小企業基盤整備機構、神奈川県は公益財団法人神奈川産業振興センターの調査報告書から抜粋。

《 調査概要 》

1. 調査時点：令和3年10月現在
2. 調査件数：鎌倉市内の中小企業、特に小規模企業（製造業・建設業・小売業（最寄品）・小売業（買回品）・飲食業・サービス業）の中から151社を抽出しました。

	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業	合計
			最寄品	買回品			
調査件数	16	14	22	29	37	33	151
回答数	11	8	15	20	20	26	100
回答率	68.8%	57.1%	68.2%	69.0%	54.1%	78.8%	66.2%

3. 調査方法：郵送によるアンケート方式（一部経営指導員による聞き取り）
4. 調査項目：
 - (1) D I の状況について
 - 1、自社の状況 2、売上額 3、資金繰り 4、採算 5、従業員数
 - (2) 設備投資について
 - (3) 経営上の問題について
5. 調査データについて
 - (1) D I : Diffusion Index（ディフュージョンインデックス・景気動向指数）の略
各調査項目について、「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値で、企業の景況感の判断に使用する指数。
 - (2) データは当該期間（四半期ごと）と、その前年同期および向こう3ヵ月の見通しを対比したものです。
 - ・四半期：1年の4分の1、すなわち「3ヵ月間」
 - ・前期比：3ヵ月前との比較
 - ・前年同期比：1年前との比較

< D I 計算例 >

「やや増加」「やや好転」50%、「変わらず」20%、「やや悪い」「やや減少」30%の場合、次の様な計算となります。

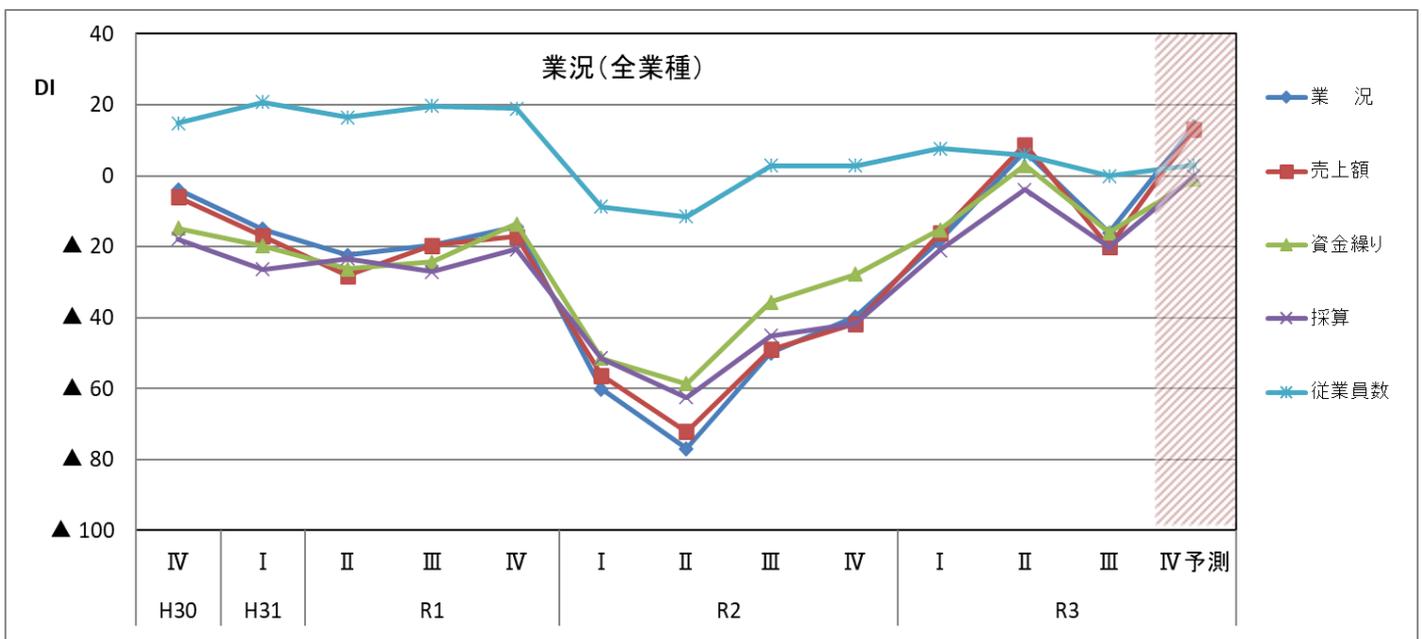
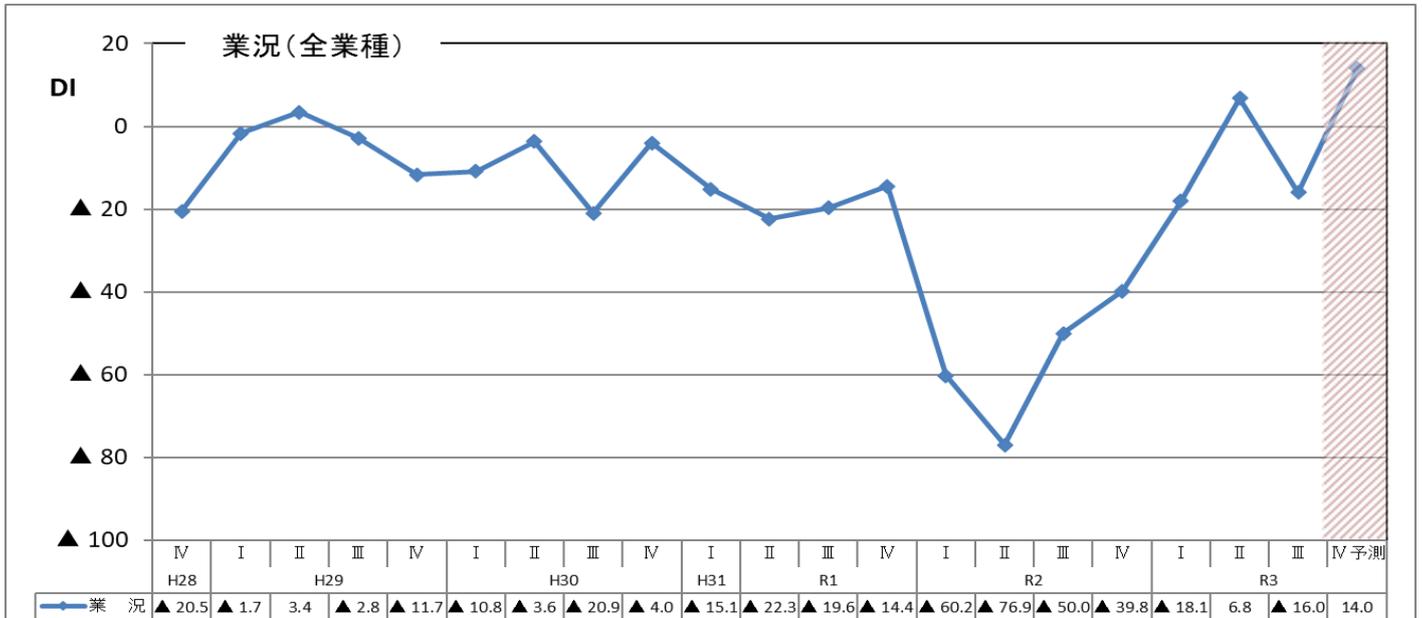
$$\begin{aligned}
 D I &= +50 - 30 \\
 &= +20
 \end{aligned}$$

《 調査結果 》

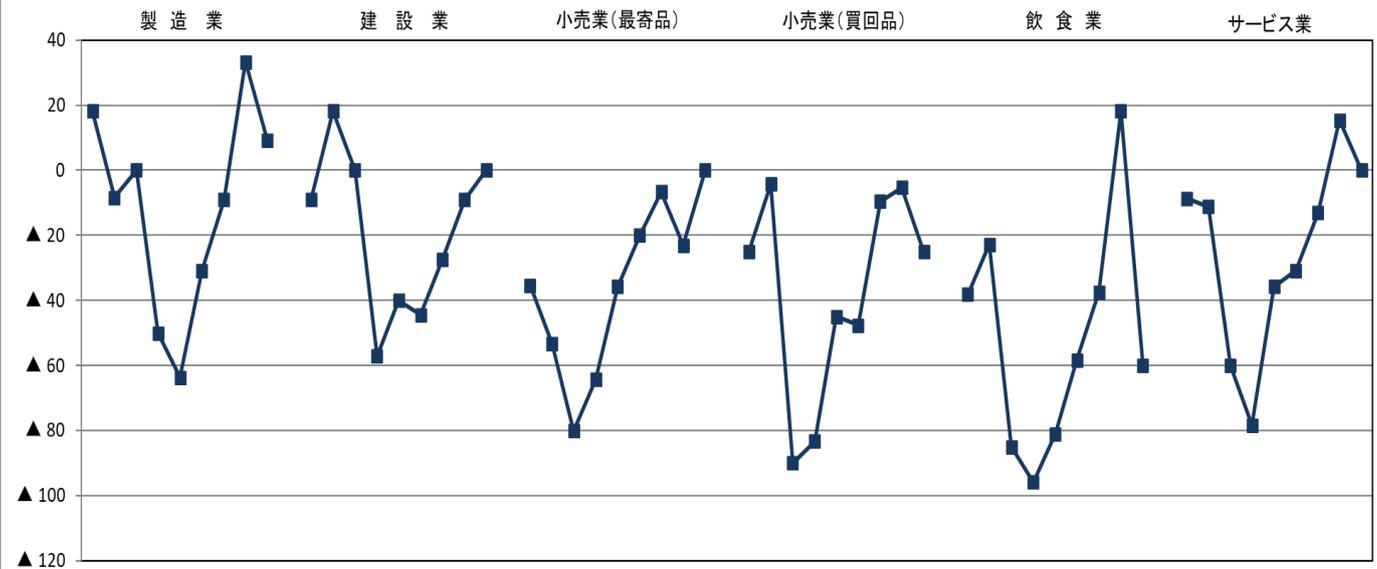
I. 全業種

□業況D I

- ・全業種の業況判断D Iは、▲16.0%（前期比 22.8 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、+14.0%と再び増加の見通しである。
 - ・売上D Iは、▲20.0%（前期比 28.7 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、+13.0%と再び増加の見通しである。
 - ・資金繰りD Iは、▲16.0%（前期比 18.9 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲1.0%と再び増加の見通しである。
 - ・採算D Iは、▲20.0%（前期比 16.1 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、±0.0%と再び増加の見通しである。
 - ・従業員数D Iは、±0.0%（前期比 5.8 ポイント減）と人手不足の解消が進んでいるが、3ヶ月先は、+3.0%とやや人手不足となる見通しである。
- ・業種別の業況判断D Iは、建設業、小売業（最寄品）では増加傾向を示しているものの、製造業、小売（買回品）、飲食業、サービス業では低下傾向となっている。



業種別 業況判断DIの推移(R元年 7-9 月期～R3年 7-9 月期)



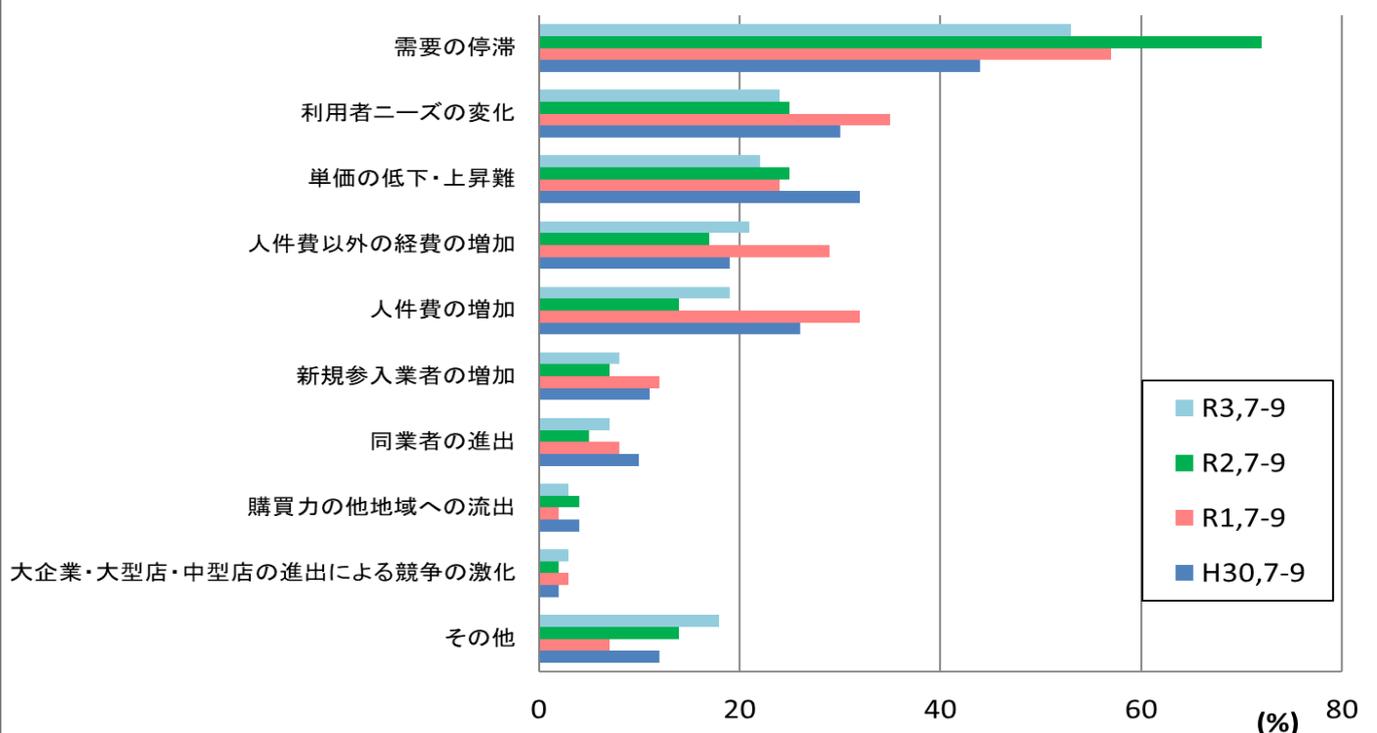
□設備投資の動向

- ・投資件数は 20 件（3 カ月前と比べて+3 件）となっており、その内訳は OA 機器 5 件、機械設備 5 件、車両運搬具 2 件、建物等 8 件、その他 0 件となっている。

□経営上の問題点（延べ問題点件数に対する比率）

- ・経営上の問題点は、①需要の停滞 29%（53 社）が最も多く、②利用者ニーズの変化 13%（24 社）、③単価の低下・上昇難 12%（22 社）、④人件費以外の経費の増加 11%（21 社）、⑤人件費の増加 10%（19 社）が続いている。

経営上の問題点（回答社数に対する比率）

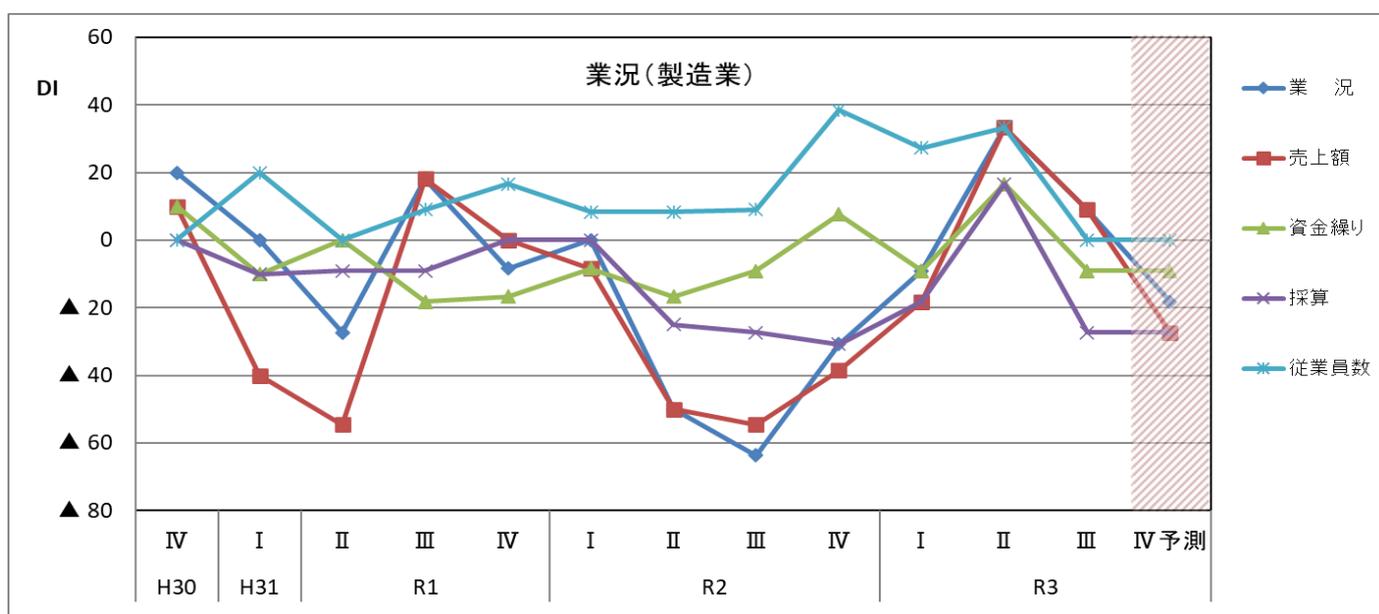


II. 業種

1、製造業

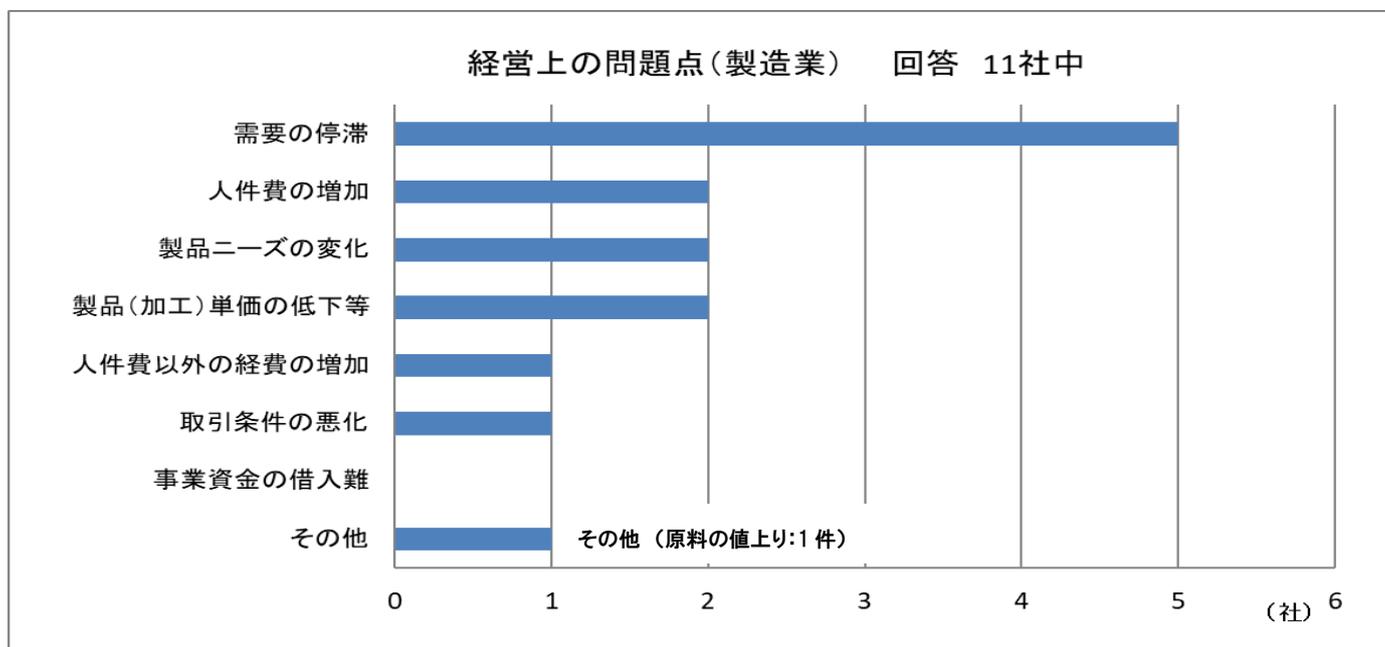
□業況D I

- ・業況判断D Iは、+9.1%（前期比 24.2 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先も、▲18.2%と更に低下の見通しである。
- ・売上D Iは、+9.1%（前期比 24.2 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先も、▲27.3%と更に低下の見通しである。
- ・資金繰りD Iは、▲9.1%（前期比 25.8 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲9.1%と横ばいの見通しである。
- ・採算D Iは、▲27.3%（前期比 44.0 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲27.3%と横ばいの見通しである。
- ・従業員数D Iは、±0.0%（前期比 33.3 ポイント減）で人手不足の解消が見られるが、3ヶ月先は、±0.0%と横ばいの見通しである。



□設備投資の動向 ○A機器 1 件、機械設備 1 件、建物等 1 件となっている。

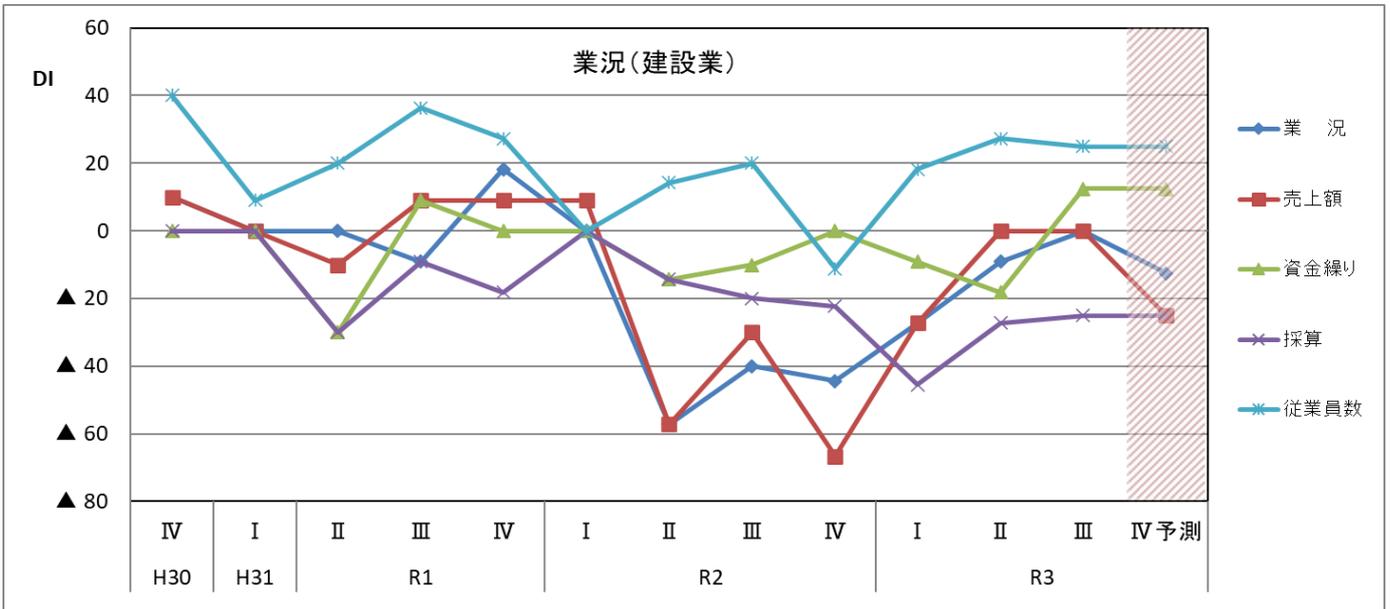
□経営上の問題点（延べ問題点件数）



2、建設業

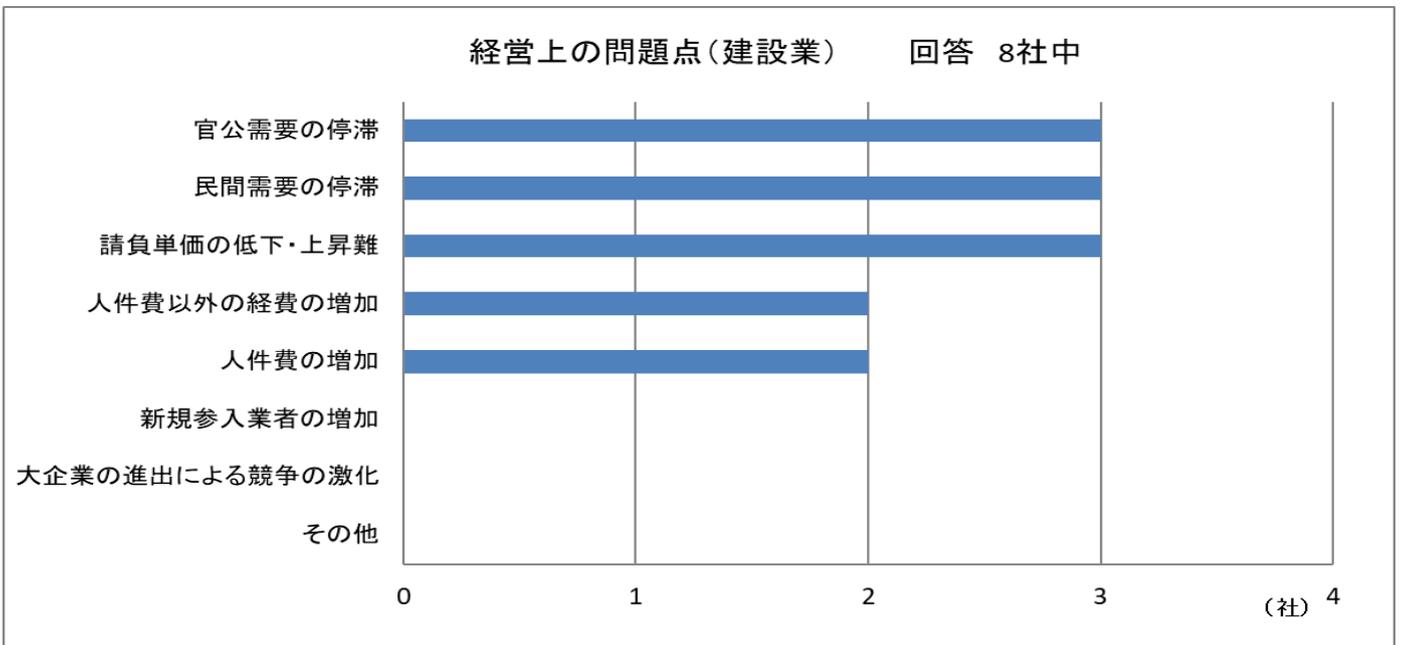
□業況D I

- ・景況判断D Iは、±0.0%（前期比 9.1 ポイント増）と増加が見られるが、3ヶ月先は、▲12.5%と再び低下の見通しである。
- ・売上D Iは、±0.0%（前期比±0.0 ポイント）と横ばいとなっているが、3ヶ月先は、▲25.0%と再び低下の見通しである。
- ・資金繰りD Iは、+12.5%（前期比 30.7 ポイント増）と大幅な増加が見られるが、3ヶ月先は、+12.5%と横ばいの見通しである。
- ・採算D Iは、▲25.0%（前期比 2.3 ポイント増）とやや増加が見られるが、3ヶ月先は、▲25.0%と横ばいの見通しである。
- ・従業員数D Iは、+25.0%（前期比 2.3 ポイント減）でやや人手不足の解消が見られるが3ヶ月先は、+25.0%と横ばいの見通しである。



□設備投資の動向 車両運搬具 1 件となっている。

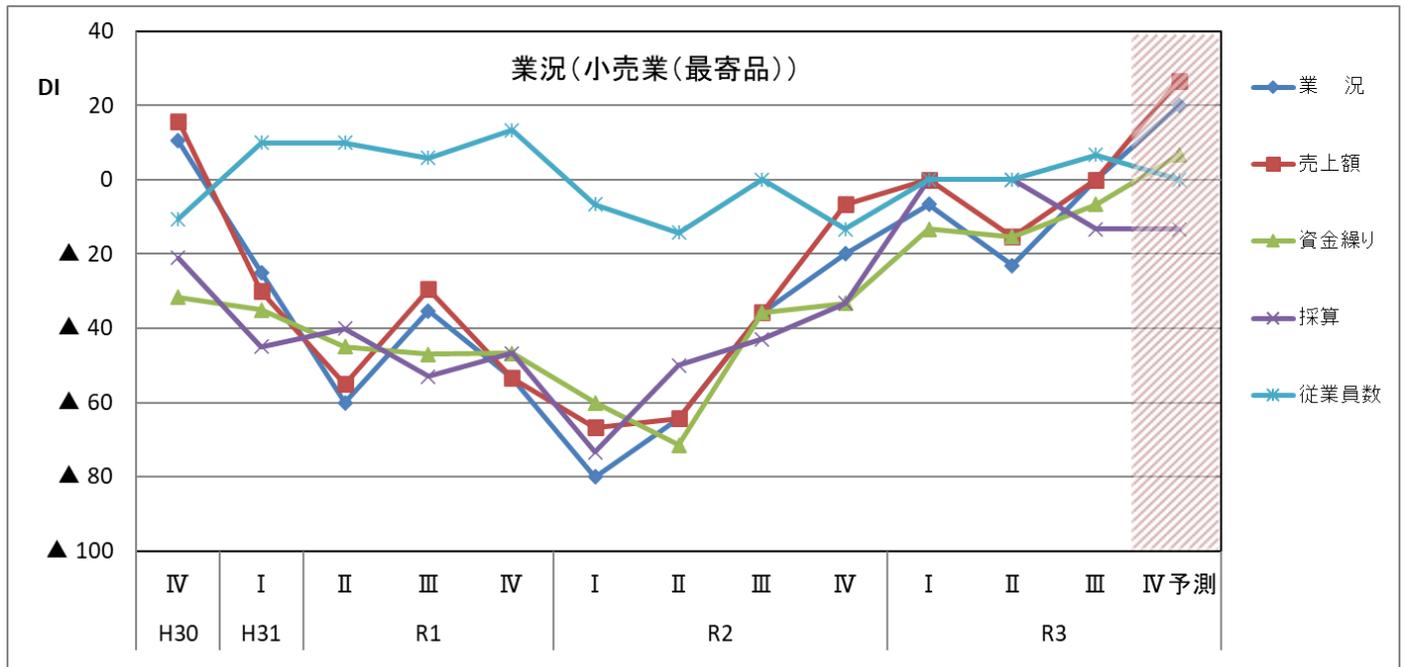
□経営上の問題点（延べ問題点件数）



3. 小売業（最寄品）

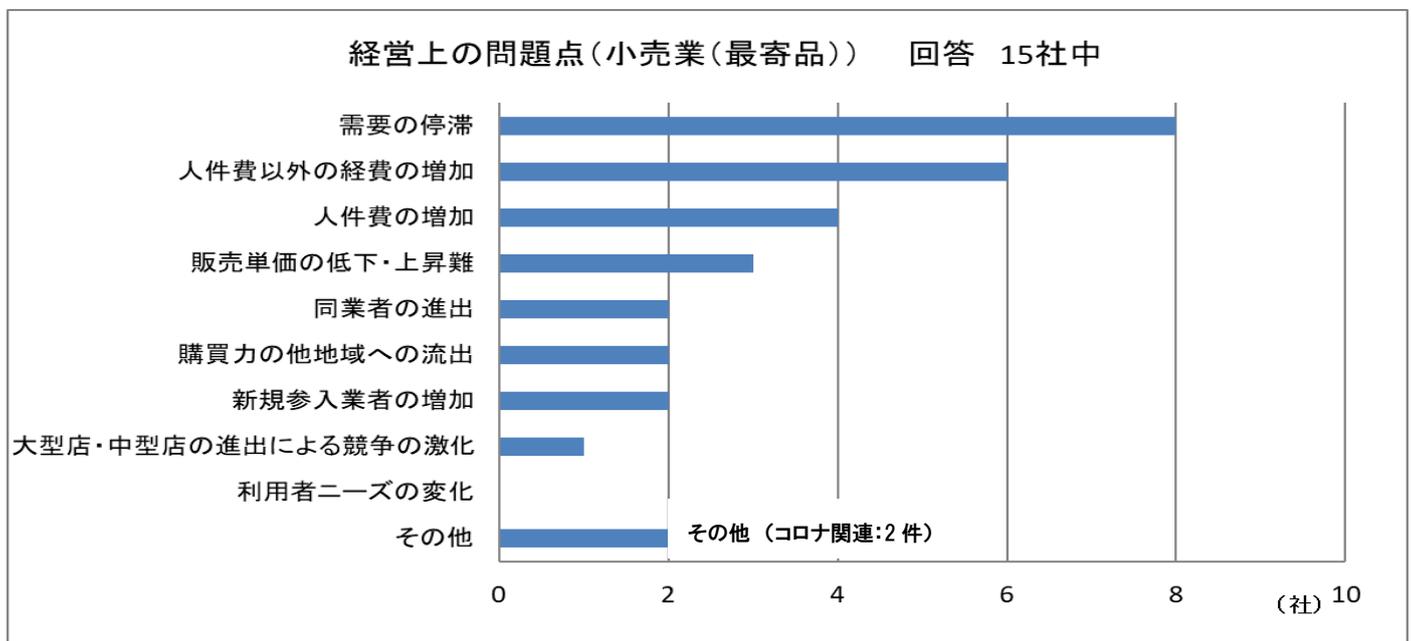
□業況D I

- ・景況判断D Iは、±0.0%（前期比 23.1 ポイント増）と大幅な増加が見られるが、3ヶ月先は、+20.0%と更に大幅な増加の見通しである。
- ・売上D Iは、±0.0%（前期比 15.4 ポイント増）と大幅な増加が見られるが3ヶ月先は、+26.7%と更に大幅な増加の見通しである。
- ・資金繰りD Iは、▲6.7%（前期比 8.7 ポイント増）と増加が見られるが、3ヶ月先は、+6.7%と更に増加の見通しである。
- ・採算D Iは、▲13.3%（前期比 13.3 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲13.3%と横ばいの見通しである。
- ・従業員数D Iは、+6.7%（前期比 6.7 ポイント増）と人手不足の増加が見られるが、3ヶ月先は、±0.0%と人手不足解消となる見通しである。



□設備投資の動向 機械設備 1 件、建物等 1 件となっている

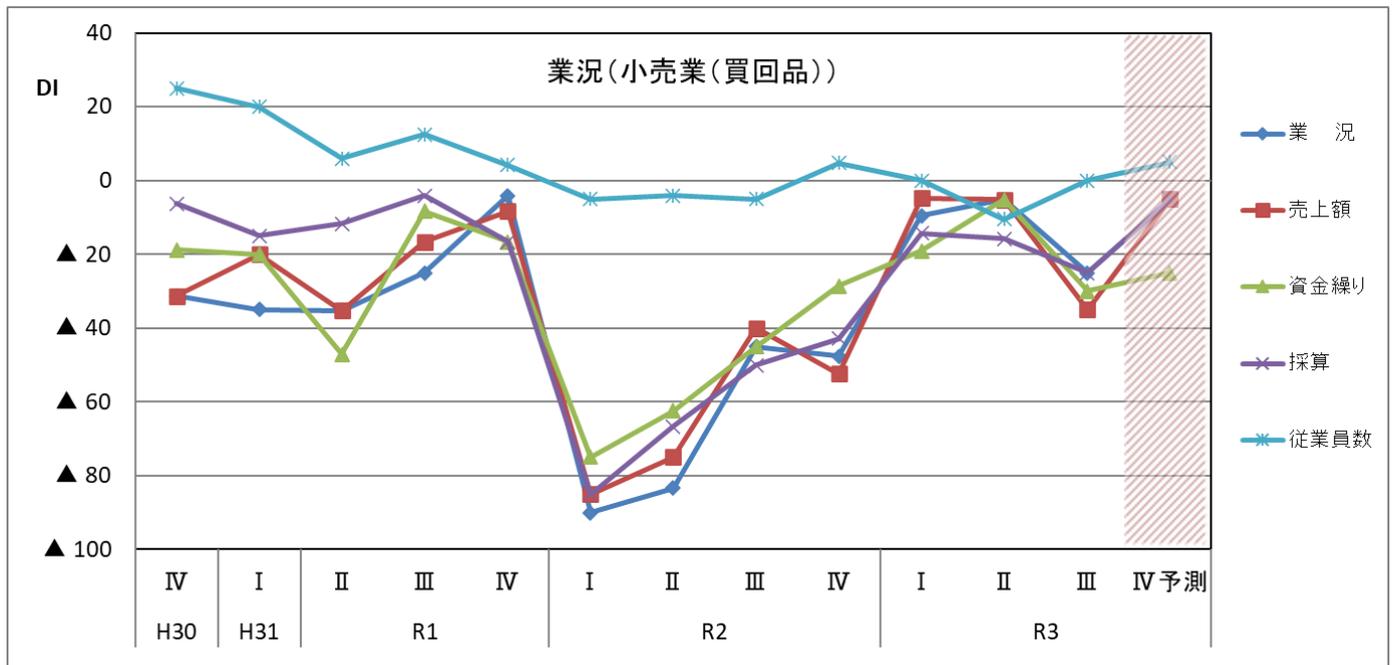
□経営上の問題点（延べ問題点件数）



4、小売業（買回品）

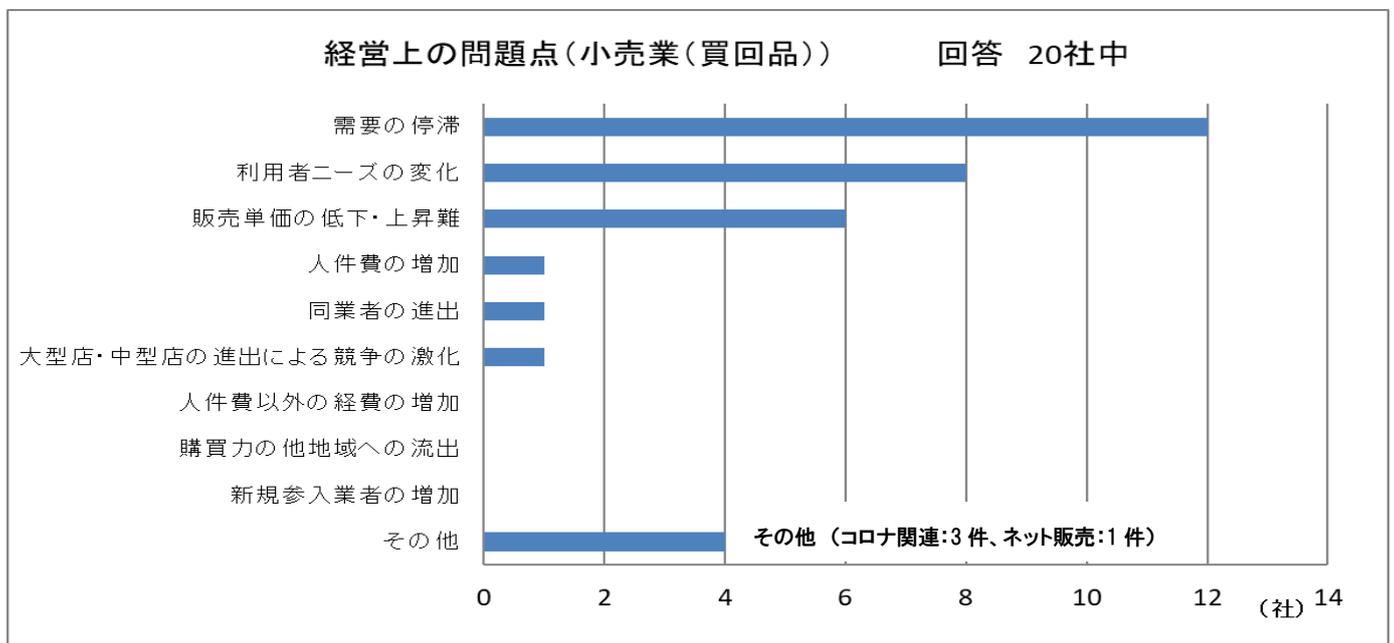
□業況D I

- ・業況判断D Iは、▲25.0%（前期比 19.7 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲5.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・売上D Iは、▲35.0%（前期比 29.7 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲5.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・資金繰りD Iは、▲30.0%（前期比 24.7 ポイント減）と大幅な低下が見られるが、3ヶ月先は、▲25.0%とやや増加の見通しである。
- ・採算D Iは、▲25.0%（前期比 9.2 ポイント減）と低下が見られるが、3ヶ月先も、▲5.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・従業員数D Iは、±0.0%（前期比 10.5 ポイント増）と人手過剰が解消されるが、3ヶ月先は、+5.0%とやや人手不足の見通しである。



□設備投資の動向 ○A機器 1 件、機械設備 1 件、建物等 1 件となっている。

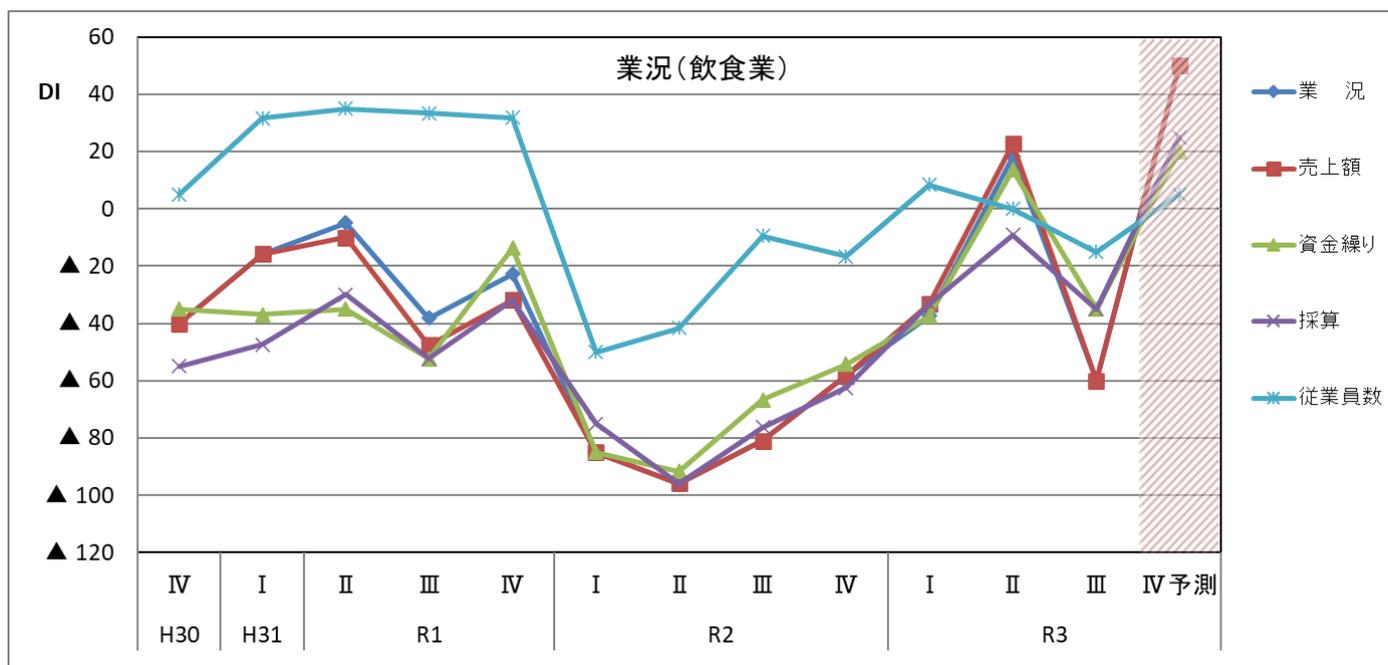
□経営上の問題点（延べ問題点件数）



5、飲食業

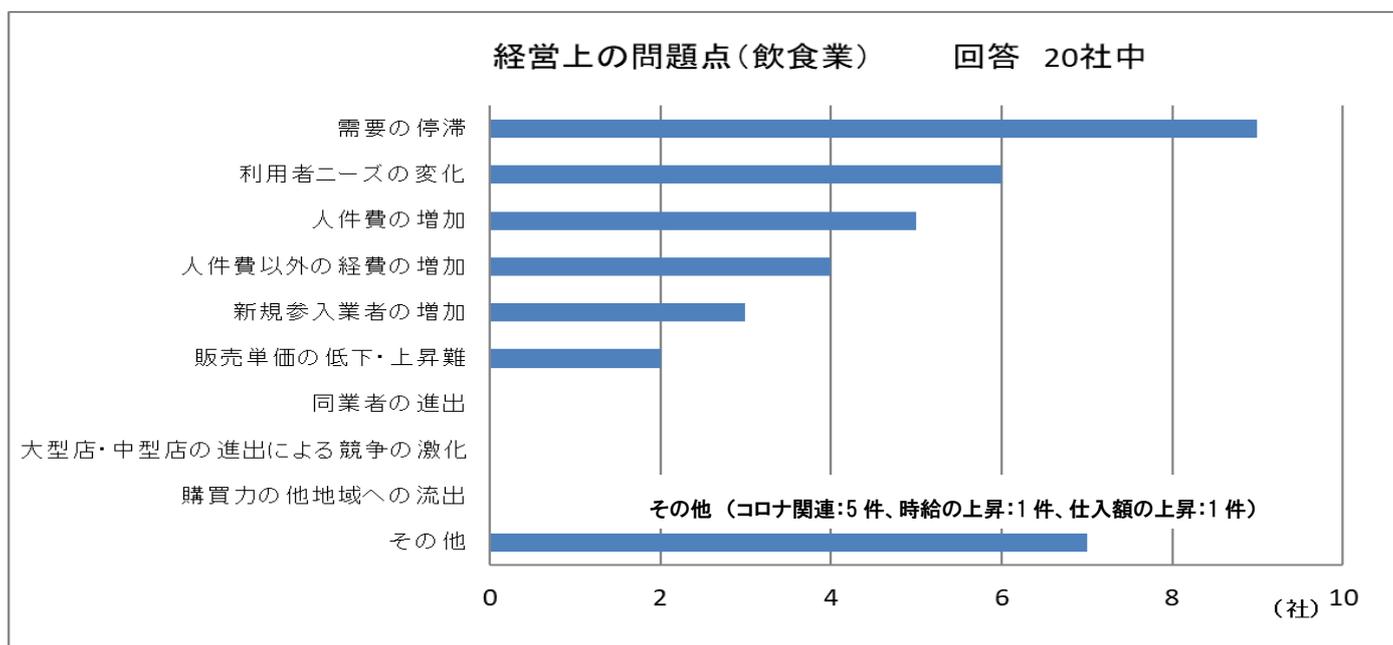
□業況D I

- ・業況判断D Iは、▲60.0%（前期比 78.2 ポイント減）と大幅な減少が見られるが3ヶ月先は、+50.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・売上D Iは、▲60.0%（前期比 82.7 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先は、+50.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・資金繰りD Iは、▲35.0%（前期比 48.6 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先は、+20.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・採算D Iも、▲35.0%（前期比 25.9 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先は、+25.0%と大幅な増加の見通しである。
- ・従業員数D Iは、▲15.0%（前期比 15.0 ポイント減）と人手過剰が見られるが、3ヶ月先は、+5.0%とやや人手不足となる見通しである。



□設備投資の動向 ○A機器 2 件、機械設備 2 件、建物等 4 件となっている。

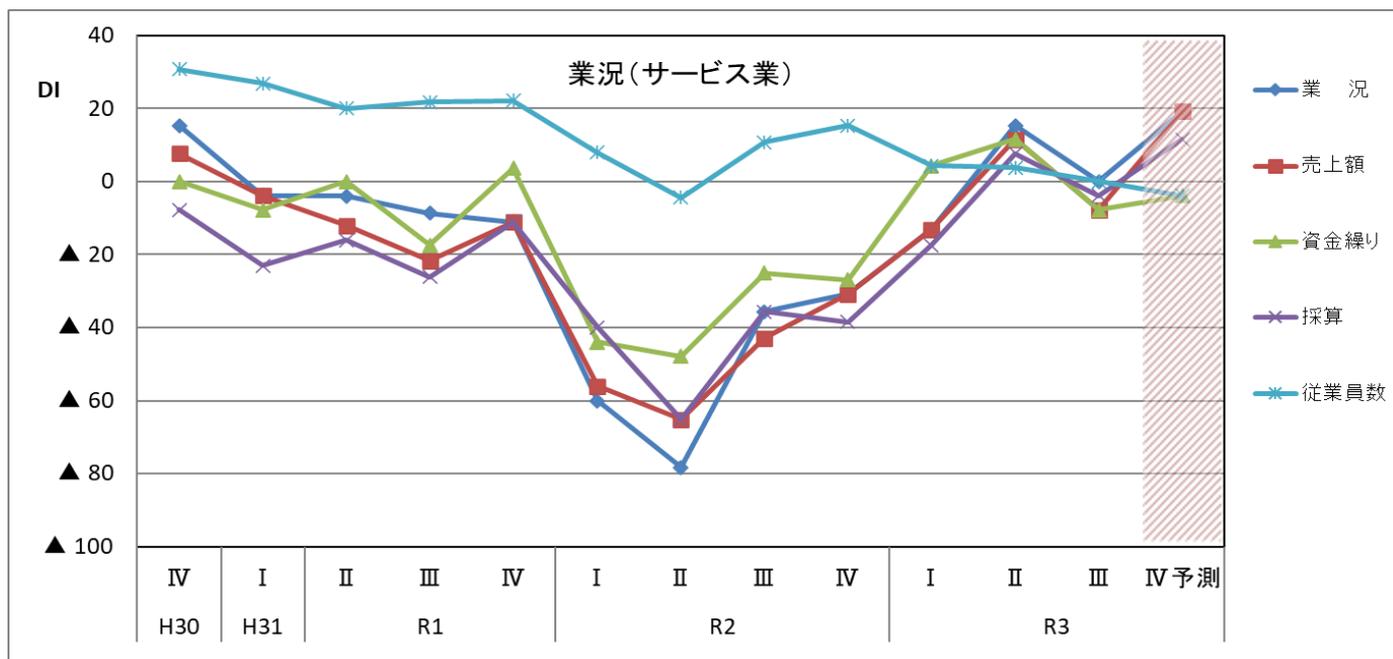
□経営上の問題点（延べ問題点件数）



6、サービス業

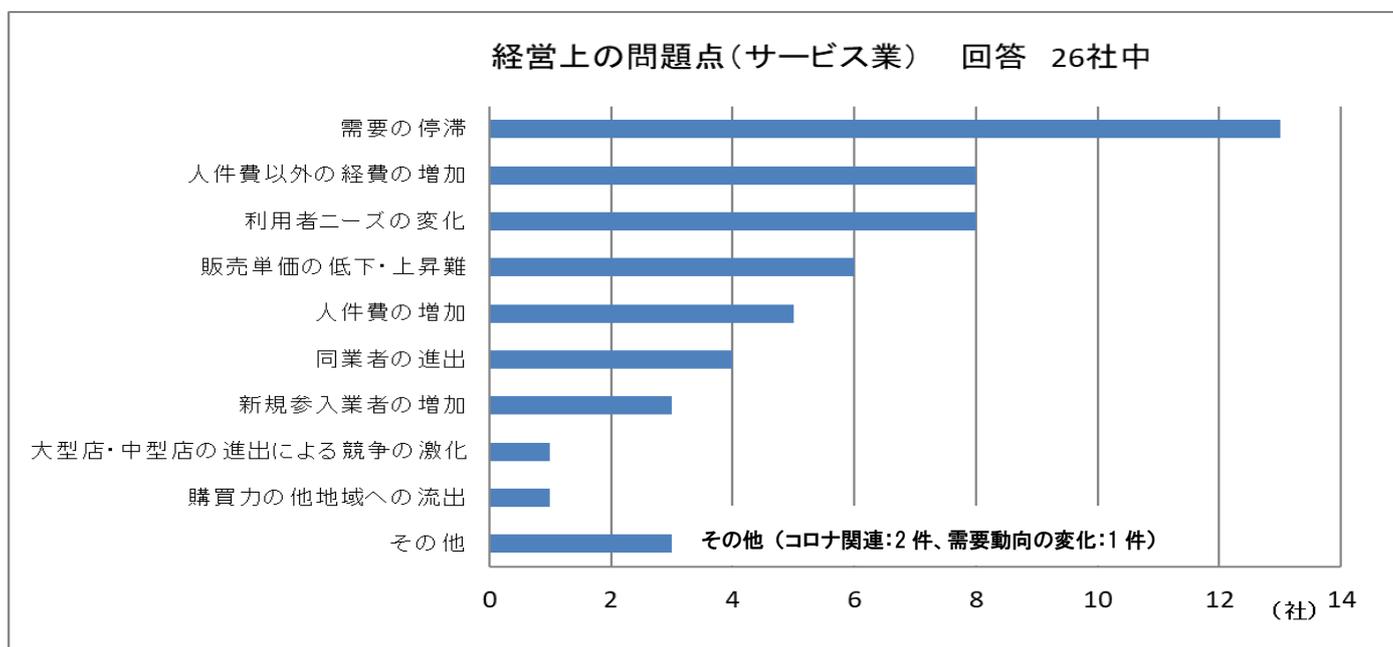
□業況D I

- ・業況判断D Iは、±0.0%（前期比 15.4 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先は、+19.2%と大幅な増加の見通しである。
- ・売上D Iは、▲7.7%（前期比 19.2 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先は、+19.2%と大幅な増加の見通しである。
- ・資金繰りD Iは、▲7.7%（前期比 19.2 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先は、▲3.8%とやや増加の見通しである。
- ・採算D Iは、▲3.8%（前期比 11.5 ポイント減）と大幅な減少が見られるが、3ヶ月先も、+11.5%と大幅な増加の見通しである。
- ・従業員数D Iは、±0.0%（前期比 3.8 ポイント減）と人手不足が解消されるが、3ヶ月先は、▲3.8%とやや人手過剰となる見通しである。



□設備投資の動向 OA 機器等 1 件、車両運搬具、建物等 1 件となっている。

□経営上の問題点（延べ問題点件数）



《資料》5年分の推移

